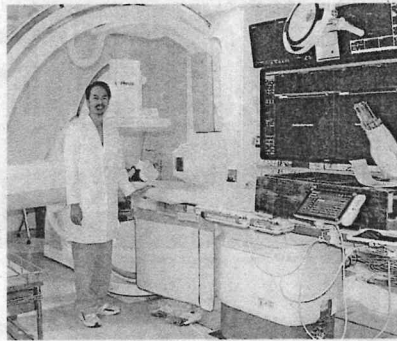


脳ドック「レイソルコース」



「発症したらすぐに検査し、手術します。でも予防が大事」と話す井上センター長（柏市の名戸ヶ谷病院で）

脳卒中予防 格安で提供

柏・名戸ヶ谷病院

柏市の中核病院「名戸ヶ谷病院」の脳卒中センターは、サッカーJ1・柏レイソルと連携し、格安の脳ドックの提供を始めた。健康なサッカーのサポーターと脳ドックの意外な組み合わせは、「脳卒中は予防が大切」との考えからだ。4月から6月末までの予約件数

は118件と予想以上の人気だ。

脳ドックの費用は、病院側の人件費や設備の維持費がかかるため、3万〜4万円が一般的。自身が健康と思っている人には高額で、なかなか検査を受けない。そこで脳卒中センターが考えたのが、近くにスタジアムがある柏レイソルのサポーターに働きかけることだった。「レイソルオリジナルコース」と銘打ち、頭部MRI（磁気共鳴画像装置）検査などを9900円（税込み）と格安にし、レイソルの公式ツイッターで告知した。

採算度外視だったが、40〜60歳代の働く世代を中心に大勢が申し込んだ。手術対象者は見つかっていないが、5人ほどが精密検査を受けた。井上靖章センター長（34）は「自分が健康と思っている人にこそ検査を受けてほしいだったので、狙いは当たった」と手応えを感じている。

同病院は病床数300、年間約5000件の救急搬送を受け入れる総合病院で、2019年12月に新築移転した。昨年10月には、脳梗塞と脳出血、くも膜下出血の脳卒中患者を24時間態勢で救急搬送で受け入れるため、脳卒中センターを開設した。

脳卒中は、発症から診断、治療までの迅速な処置が重要で、同センターでは8人の脳神経外科医が救急隊からの電話を直接受け、患者の到着までに医師や看護師、放射線技師らが待機し、即座に検査して手術できる

態勢を整えた。電話は1〜4月で101件に上り、39件の手術を行った。

井上センター長は「脳卒中は、持病があつて病院通いをしている人は気をつけるが、元気でバリバリ働いている人でも危険はある。検査で何も見つからなくても健康を気にするきっかけになる」と強調している。